# くまもとの道
# Road of Kumamoto
# 2022

## 熊本県の概況

### 1. 地形と自然

熊本県の面積は、7,409㎢であり、全国では15位、九州では鹿児島、宮崎県に次ぐ広さを有しており、県土の約63%が森林となっています。北部の地形は比較的緩やかですが、北東部に阿蘇火山、東部に九州山地が走り、西部は遠浅な有明海、八代海に面しており、天草諸島は大小120余の島々からなっています。

自然公園は、阿蘇くじゅう国立公園、雲仙天草国立公園、耶馬日田英彦山国定公園、九州中央山地国定公園、7つの県立自然公園があります。

### 2. 歴史

火の山阿蘇で代表される熊本県は、「火の国」と呼ばれ7世紀末に肥後国となりました。近世にはいり、九州を平定した豊臣秀吉は、その属将の佐々成政を肥後国守としました。その後、肥後国は二分され、県北地域を加藤清正が、県南地域を小西行長が支配することになりました。関ヶ原の合戦によって小西行長が滅ぶと、球磨地方を除く領地と天草は加藤清正に与えられましたが、球磨郡相良領は相良氏が明治まで支配しました。その後、加藤氏の跡を受けて細川忠利が肥後54万石の領主として入国し、藩政が承継されました。明治4年の廃藩置県によって熊本藩は熊本県、人吉藩は人吉県となりました。その後、数次におよぶ変遷を経て明治9年に熊本県となりました。

現在、14市23町8村の45市町村で構成されています。

### 3. 人口

熊本県の人口は、令和2年の国勢調査によると約174万人となっており、九州では福岡県に次ぐ人口を有しています。また、高齢化率は31.1%と全国平均の28.4%を大きく上回っており、全国平均より3ポイント程高い高齢化率となっています。

### 4. 産業

肥沃な大地と豊富な漁場に恵まれ、農林水産業が盛んです。中でも、い草、葉タバコ、ノリ、車エビ等の生産は全国でも上位を占めています。第二次産業は近年の企業誘致政策により、徐々に工業の地位が向上しています。中でも半導体関連(集積回路製造業及び半導体製造装置製造業)ではシリコンアイランドと言われる九州の中でも約55%(2018年)の生産額を示しています。第三次産業は、県内純生産の7割超(2015年)を占め、特に卸売業・小売業が盛んです。

### 5. 平成28年熊本地震の発生 (数値等は平成31年1月11日時点)

4月14日21時26分に熊本県熊本地方の深さ11kmでマグニチュード6.5の地震(前震)が発生しました。さらに、28時間後の4月16日1時25分、同地方の深さ12kmでマグニチュード7.3の地震(本震)が発生し、これらの地震ではいずれも最大震度7を観測しました。なお、同一地域で震度7を二度観測したのは観測史上初めてのことです。

[平成28年熊本地震の概要]

| | | 前震 | 本震 |
|---|---|---|---|
| 発生日時 | | 平成28年4月14日　21時26分 | 平成28年4月16日　1時25分 |
| 震央地名 | | 熊本県熊本地方 | 同左 |
| マグニチュード | | 6.5 | 7.3 |
| 震度6弱以上を観測した自治体 | 震度7 | 益城町 | 益城町、西原村 |
| | 震度6強 | なし | 農本市、菊池市、宇土市、宇城市、合志市、大津町、嘉島町、南阿蘇村 |
| | 震度6弱 | 熊本市、玉名市、宇城市、天草市、和水町、菊陽町、御船町、美里町、山都町、氷川町 | 八代市、玉名市、上天草市、阿蘇市、天草市、和水町、菊陽町、御船町、美里町、山都町、氷川町 |

※気象庁「震度データベース」により作成

熊本都市圏及び阿蘇地方を中心に多数の家屋倒壊や土砂災害が発生し、県内では死者270人、負傷者2,737人の人的被害が発生しました。住家被害は、全壊約8千6百棟を含む約19万8千棟を超え、自治体が開設した避難所には最大で約18万人(県人口の約1割)が避難しました。学校、医療・社会福祉施設、自治体庁舎など、多くの県民が利用する施設でも被害が発生し、一部の施設では移転を余儀なくされています。また道路や河川等の公共土木施設(国・県・市町村管理)は約3,400箇所で被害が発生し、阿蘇大橋地区では、大規模な山腹崩壊による国道の寸断や阿蘇大橋の落橋が発生しました。

さらに、熊本城や阿蘇神社を始めとする文化財にも被害が発生しました。

## 新しいくまもと創造に向けた基本方針

「新しいくまもと創造に向けた基本方針」は、新型コロナウイルス感染症による危機を乗り越えるとともに、2つの災害からの創造的復興を熊本の発展につなげ、地方創生を実現するため、重点的に推進する主な取組みの方向性を明らかにしたものです。

この基本方針のもと、「県民総幸福量の最大化」の考え方を継承しながら、国・市町村・企業・民間団体・県民の皆様と一丸になって取組みを進めます。そして、50年後、100年後を見据え、熊本の更なる発展につなげていきます。

### 取組の方向性と実現に向けた施策

| 令和2年7月豪雨からの創造的復興 | 新型コロナウイルス感染症を踏まえた対応 | 熊本地震からの創造的復興 | 将来に向けた地方創生の取組み |
|---|---|---|---|
| 【施策1】被災者・被災地域の1日も早い復旧・復興に向けた取組み | 【施策3】感染対策の体制強化 | 【施策6】くらし・生活の再建 | 【施策8】次世代を担う人材の育成 |
| 【施策2】県下全域で取り組む災害に強い郷土づくり | 【施策4】持続可能な社会の実現 | 【施策7】創造的復興の推進 | 【施策9】若者の地元定着と人材育成 |
| | 【施策5】持続可能な経済活動の実現 | ※□の施策の中で道路整備を推進します。 | 【施策10】安全安心な社会の実現 |
| | | | 【施策11】魅力ある地域づくり |

### 基本目標

- 愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、若者が"残り・集う"持続可能な地域の実現を目指すとともに、県下全域においても災害に強い郷土づくりに取り組む
- 感染拡大防止と大きな打撃を受けた県経済や県民生活の回復とのベストバランスを図るとともに、社会の変容を好機と捉え、熊本の更なる発展につなげる
- 熊本地震からの創造的復興の総仕上げに向け、残された課題を確実に解決し、熊本の更なる発展につなげる
- このような情勢下においても着実に進めていく必要のある施策について、必要性や優先順位を見極めながら地方創生の実現につなげる

### 基本理念

熊本地震と令和2年7月豪雨からの創造的復興を両輪に、
新型コロナウイルス感染症による社会の変容を見据え、「新しいくまもと」を創造する

## 令和2年7月豪雨からの創造的復興

### ■概要

令和2年(2020年)7月3日夜、梅雨前線が九州北部地方まで北上し、九州では大気の状態が非常に不安定となり、7月3日から4日までの2日間で、7月の平均降量約1か月分を観測する大雨となりました。

特に、県南に流れる球磨川流域では線状降水帯が形成され、時間雨量30mmを超える激しい雨が7月4日未明から朝にかけて、8時間にわたり連続して降り続けました。

### ■被害状況

県内の被害総額は、建築物(住宅関係)約1,554億円、公共土木施設約1,512億円、農林水産関係約1,019億円など、合計約5,222億円となり、昭和以降に県内で発生した災害のうち、熊本地震に次ぐ被害額となっています。

道路と構築に関しては、球磨川沿線の10橋の流出をはじめ、国道219号や県道等(八代市～人吉市)で土砂流入、路体流出など甚大な被害を受けました。

【令和2年7月豪雨の概要】 (令和3年3月30日現在)

| 発生日 | 令和2年(2020年)7月3日～4日 | |
|---|---|---|
| 主な被災地域 | 八代市、人吉市、芦北町、津奈木町、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村など | |
| 被害規模 | 全壊 | 1490棟 |
| | 半壊 | 3099棟 |
| | 床上浸水 | 294棟 |
| | 床下浸水 | 427棟 |
| 道路被害額 | 道路 | 1560箇所　517億円 |
| | 橋梁 | 35箇所　343億円 |

※道路及び橋梁の被害箇所数・被害額は、県と市町村の合計。

国道219号(球磨村)　道路決壊

### ■道路・橋梁の復旧状況

豪雨により流出した10の橋梁のうち、通学路に指定されている人吉市の西瀬橋が、国による直轄代行工事により再災からひか月後の令和2年9月に仮復旧し、地域住民の生活再建への第一歩となりました。

これに続き、同じく豪雨で流出した坂本橋、相良橋、鎌瀬橋など、球磨川に架かる橋梁及び国道219号や県道等(八代市～人吉市)の道路総延長約100kmについても復旧作業が進められています。

また、被害の大きかった球磨郡球磨村では、多くの集落をつなぐ重要路線である村道宮大椎線などの4村道(延長約25km)について、県が村に代わり復旧代行工事を進めています。

### ■復旧・復興に向けた取組み

令和2年7月豪雨への対応として、本県は令和2年11月「令和2年7月豪雨からの復旧・復興プラン」を策定し、復興に向けた中長期的な取組みの具体案を定めました。

道路に関する事項として、「災害に強い社会インフラ整備と安心して学べる拠点づくり」を大きな方針とし、国道219号の強靭化、道路通信網のリダンダンシー確保、防災拠点としての「防災公園整」や「防災道の駅」の整備を進めていきます。

## 幹線道路ネットワーク等の整備 ～すべての道はくまもとに通じる～

九州の横軸・縦軸のリダンダンシーの確保と循環型高速交通ネットワークのミッシングリンク解消を図るため"すべての道はくまもとに通じる"という考えのもと、中九州横断道路、九州中央自動車道、南九州西回り自動車道、有明海沿岸道路等の幹線道路ネットワークの整備を促進します。 また、国道3号及び国道57号の渋滞解消や、※「90分構想」の実現に向けた熊本天草幹線道路の早期整備にも取り組んでいきます。

※90分構想
熊本都市圏と県内主要都市を90分以内で結ぶ県内幹線道路の整備。県内で90分以内が達成できていない都市は天草市(旧本渡市)のみ。

### 「九州の循環型高速交通ネットワークに向けて整備が進んでいます」

有明海沿岸道路
(三池港IC連絡路)着工式
[2022年1月22日]

中九州横断道路
「大津熊本道路(大津西～合志)」
事業化決定セレモニー
[2022年4月26日]

熊本天草幹線道路 本渡道路
整備状況

※写真提供：熊本河川国道事務所
九州中央自動車道 山都中島西IC
整備状況

本渡道路
完成予想ＣＧ

南九州西回り自動車道 水俣IC
開通状況
[2019年3月2日開通]

南九州西回り自動車道建設促進大会
[2021年11月15日]

凡例
- 高速自動車国道
  - 供用中
  - 整備計画区間
  - 基本計画区間
  - 新直轄区間
- 一般国道自動車専用道路
  - 供用中
  - 事業区間
  - 計画区間
- 地域高規格道路
  - 供用中
  - 整備区間
  - 調査区間
  - 計画路線
  - 構想路線

## 道路の現況

【道路網】

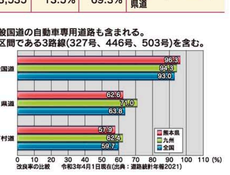
①現況
- 熊本県内の道路は、42,568路線、26,213km
  このうち県管理道路は、256路線、3,535km
  (一般国道指定区間外：20路線、929km
  県道：252路線、2,968km)

・熊本県内の道路　令和3年4月1日現在(出典：道路統計年報2021)

| 道路種別 | | 路線数 | 実延長(km) | 延長割合(%) | 改良率(%) | 主な路線 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 高速自動車国道 | | 2 | 147 | 0.6% | 100.0% | 九州縦貫自動車道、九州中央自動車道 |
| 一般国道 | | 23 | 1,252 | 4.8% | 96.4% | |
| | 指定区間 | 3 | 323 | 1.2% | 100.0% | 3号、57号、208号 |
| | 指定区間外 | 20 | 929 | 3.5% | 95.1% | 212号外 |
| 県道 | | 252 | 2,968 | 11.3% | 62.6% | 熊本玉名線外 |
| 市町村道 | | 42,291 | 21,847 | 83.3% | 57.9% | |
| 合計 | | 42,568 | 26,213 | 100.0% | 60.5% | |
| うち県管理道路 | | 255 | 3,535 | 13.5% | 69.3% | 一般国道(指定区間外)、県道 |

・自転車道は含まない。
・一般国道の数値には、有料道路区間や一般国道の自動車専用道路も含まれる。
・一般国道指定区間外の路線数には、重用区間である3路線(327号、446号、503号)を含む。

②整備状況
- 熊本県内の道路改良率は、グラフのとおり。
  熊本県内道路のうち、県道と市町村道の改良率が、全国及び九州平均を下回っています。




■高規格幹線道路

高規格幹線道路は、自動車の高速交通(80～100km/h)の確保を図る自動車交通網を構成する自動車専用道路であり、高速自動車国道及び一般国道の自動車専用道路として整備が進められています。

高規格幹線道路　約14,000km(全国)

国幹道法に基づく高規格幹線道路
国土開発幹線道路(高速自動車国道)
約11,520km(全国)
※九州縦貫自動車道、九州中央自動車道

国土交通大臣の指定に基づく高規格幹線道路
一般国道の自動車専用道路
約2,480km(全国)
※南九州西回り自動車道

◆高規格幹線道路の整備状況　令和4年(2022年)4月5日時点
・本県と全国、九州比較

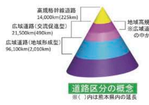
| | 計画延長(km) | 供用延長(km) | 供用率 |
|---|---|---|---|
| 全国 | 14,000 | 12,189 | 87.1% |
| 九州 | 1,513 | 1,321 | 87.3% |
| 熊本 | 226.8 | 189.5 | 83.6% |

・本県における状況

| 路線名 | 総延長(km) | 県内延長(km) | 供用延長(km) | 供用率 |
|---|---|---|---|---|
| 九州縦貫自動車道 | 428.0 | 134.8 | 134.8 | 100.0% |
| 九州中央自動車道 | 95.0 | 42.0 | 12.6 | 30.0% |
| 南九州西回り自動車道 | 140.0 | 50.0 | 42.1 | 84.2% |
| 計 | 663.0 | 226.8 | 189.5 | 83.6% |

■地域高規格道路

地域高規格道路は、高規格幹線道路を補完し、地域相互の交流促進や、広域交通拠点等への連絡強化を図るため、自動車専用道路又はそれと同程度の機能を有する真の高い規格(概ね60km/h以上のサービス速度)を有する道路です。




◆地域高規格道路の整備状況　令和4年(2022年)4月5日時点
・本県における状況

| 路線名 | 総延長(km) | 県内延長(km) | 供用延長(km) | 供用率 |
|---|---|---|---|---|
| 中九州横断道路 | 120.0 | 60.0 | 11.9 | 19.8% |
| 熊本環状道路 | 30.0 | 30.0 | 4.1 | 13.7% |
| 熊本天草幹線道路 | 70.0 | 70.0 | 17.0 | 24.3% |
| 有明海沿岸道路 | 85.0 | 30.0 | 0.0 | 0.0% |
| 計 | 305.0 | 190.0 | 33.0 | 17.4% |

- 熊本県内の高規格幹線道路の整備は、九州縦貫自動車道など縦軸の整備に比べて、横軸を形成する九州中央自動車道の整備が遅れています。
  また、地域高規格道路の整備は、17.4%の供用率に留まっています。

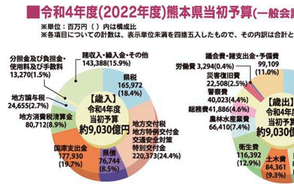
## 道路に関する予算

■道路予算の推移

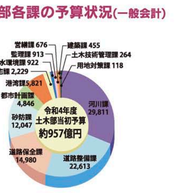
- 本県の道路予算(工事費)は、令和4年度(2022年度)当初予算で約325億円。このうち、道路の新設や改築に係る改築系予算(改築系＋直轄負担金)が約190億円(58%)。
- 公共事業関係費の削減が続いたことや県財政再建による公共事業の縮減などから年々減少。
- 財政健全化の取り組みをスタートさせた平成13年度の前年度(平成12年度)に比べ半減。特に改築系予算は約6割の減。近年は横ばい傾向。

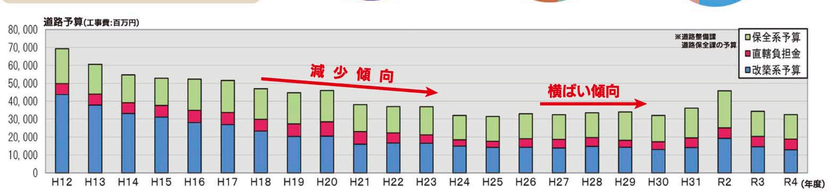
■令和4年度(2022年度)熊本県当初予算(一般会計)

※単位：百万円（）内は構成比
※各項目については予算額、表示単位未満を四捨五入したもので、その内訳は合計と一致しない場合があります。




■土木部各課の予算状況(一般会計)




## 戦略的な維持管理・更新の徹底 ～社会資本等の強靱化～

県民生活の安全安心を確保するため、道路公共土木施設等について、計画的な整備や必要な耐震対策、戦略的な維持管理・更新を徹底します
これまでに、「橋梁」「舗装」「トンネル」「道路防災」について、道路ストック総点検の結果に基づいた各維持管理計画を策定し、施設の長寿命化、ライフサイクルコストの縮減、予算の平準化を図っています。

### ■熊本県橋梁長寿命化修繕計画の概要

■熊本県の橋梁の現状

架設後、長期間が経過した橋梁が多く、計画的な維持管理が必要。